



# 商工かほく 1

令和7年1月 第101号

さて、昨年は1月1日能登半島地震が発生、かほく市でも大きな被害が生じました。当会員1,000社中230社を超える事業所が何らかの被害を受けました。特に大崎地区をはじめとするいくつかの地区では液状化による被害が大きく、当会では、国・県・市の協力を得て、各種補助金制度を活用し復旧・復興に取り組みました。早い段階で復旧した事業所もありましたが、液状化による被害を受けた事業所は、応急処置を施しただけで、本格的な復旧までには、まだしばらく時間がかかる状況で、当会としては、被害事業所に伴走した支援を継続してまいります。ここで、わが国の経済に目を向けますと、ロシア・ウクライナなど世界の複数の場所での紛争の勃発や円安の影響で、原材料の高騰、電気料金の高騰、食材の高騰が生じ、様々な企業の業績が悪化しています。また、国内の法整備の見直しによる働き方改革の推進、人手不足、生産性の向上、販路開拓、経営者の高齢化に伴う事業承継など、常態化する様々な経営課題にも直面しております。

さらに、ここ数年のデジタル化の急速な発展により、事業所にはDX（デジタルトランスフォーメーション）、AI（エーアイ）、ChatGPT（チャット・ジーピーティ）などへの対応が求められています。こういった中、かほく市商工会では、国・県・市からの支援を得ながら、市内事業所が大きな環境変化に対応できるよう各種支援に早急に取り組み所存です。具体的な支援として、能登半島地震の復旧・復興に向けては、「なりわい補助金（国補助金）」、「災害型持続化補助金（国補助金）」の申請支援があります。また、金融支援について、当面の資金繰りについては石川県信用保証協会との連携を強め、コロナ融資の返済負担軽減や緊急融資の支援を行います。また、事業所がDX、AI、ChatGPTなどに取組む際は、要望に応じた専門家の派遣制度（無料）を活用し、専門家との間のコーディネート役として支援を進めてまいります。また、能登半島地震を機に、BCP計画（多発する自然災害等に対する小規模事業者の事業継続計画）策定について、事業所からの策定支援の要望が増しており、早急に対応してまいります。

かほく市商工会は、これらの支援策の窓口となり、役員一丸となり、会員皆様のお力も借りながら「元気な企業が集うまち、かほく市」を目指して取り組んでまいりますので、よろしくお願ひします。



**新年のごあいさつ**  
かほく市商工会  
会長 南 春夫

新年あけましておめでとうございます。令和7年の新春を迎えるにあたり、謹んで挨拶を申し上げます。

旧年中は、商工会事業の円滑な推進にご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

**青年部 視察研修 関東方面**

1日目：10月27日(日)、北陸新幹線で横浜へ到着しました。まず訪れたのは、キリンビール工場。お昼は工場内のレストランで食事を楽しみ、その後二番搾りおいしさ実感ツアーに参加しました。ツアーではビールの製造過程を間近で見学。二番搾りの名前の由来やこだわりを学びながら、できたての生ビールを試飲しました。「これぞ本物！」と大好評でビールを堪能しました。

午後からは横浜観光へ出発。の予定が、横浜マラソンと鉢合わせしてしまい赤レンガ倉庫は断念。それでも横浜中華街での夕食で楽しいひとときを過ごしました。

2日目：10月28日(月)、プリチストン工場へ向かいました。工場に到着するとそのスケールの大きさに圧倒されました。プリチストンの歴史や製品へのこだわり、環境への取り組みなど、いろいろな視点から学びがありました。「未来への挑戦」という熱いメッセージが印象的でした。

次に向かったのは国会議事堂です。到着後、会館内で名物の「国会カレー」をいただき、参議院議員の宮本周司議員がわざわざご挨拶に来ていただきました。その後、国会の仕組みや内部の説明を聞きながら見学を楽しみました。「ニュースで見る国会」を目の当たりにし、改めて日本の政治について考える良い機会になりました。帰りは東京駅で買い物や軽食を楽しみ、2日間の見学旅行が無事終了しました。

今回の旅行は、工場見学や国会訪問を通じて、普段の生活では体験できないモノづくりの現場と「政治の現場」に触れることができ、とても有意義な時間でした。キリンビール工場では、「ビール」の奥深さを知ってさらに好きになった！という声が多く、国会議事堂では「政治ってこんな風に動いているんだ！」と驚きの声もありました。

また、移動中や夕食の時間を通じて、普段あまり話せないメンバーとも親しくなることができたのも大きな収穫です。「次はどこに行こうか？」なんて話で盛り上がり、次回の研修が早くも楽しみになっています。これからも仲間と一緒にいろいろな体験を積みながら、さらに活動を充実させていきたいと思ひます。



**目次**

P2 FaW TOKYOファッションワールド東京 広域商業振興研修会 河北・森本広域商工会 視察研修 かにカニ合戦 大盛況 「さやまマルシェ秋」Loveかほく市場

P3 かほく創業塾2024 「PFUブルーキャッツ石川かほく」応援観戦会 商業部会 視察研修/建設部会 視察研修

P4 申告会場のお知らせ 11月号読者プレゼント当選者発表 雑炊・鍋まつり予告 てんこもりフェスタ2024 ちょこっと旅「高松歴史探索」開催

<https://kahoku.shoko.or.jp/>

## 金沢税務署からのお知らせ

開設場所	開設期間	受付時間
金沢税務署会場	2月17日(月)～ ～3月17日(月) の平日	9時～16時 (津幡町は 16時30分まで)
金沢市役所会場		
かほく市会場 (七塚健康福祉センター)		
津幡町役場会場		
内灘町役場会場		

- 税務署の申告会場への入場には、「入場整理券」が必要です。詳しくは、国税庁ホームページをご確認ください。
- 給与・年金収入の方(住宅借入金等特別控除を初めて受けられる方を除く。)は、市役所・役場会場もご利用できます。
- 金沢税務署会場においては、3月2日の日曜日は開設します。

**【お問い合わせ先】**(確定申告に関するお問い合わせ先は、税務署になります)  
金沢税務署 〒920-8505 金沢市西念3丁目4番1号(金沢駅西合同庁舎)  
☎(076)261-3221(自動音声案内)

**【申告書を書面で提出される場合の送付先】**  
(宛先) 金沢国税局業務センター(金沢税務署)  
(住所) 〒920-8526 金沢市戸水2丁目30番地(金沢国税局戸水分庁舎)  
※申告書等を窓口を持参される場合には、従前どおり所轄税務署へ提出をお願いします。  
※書面の申告書等を、上記の宛先に持ち込むことはできません。  
※令和7年1月から申告書等の控えに収受日付印の押なつを行いませんので、提出用のみを送付してください。

## 申告期限

所得税および  
復興特別所得税・贈与税 令和7年 **3月17日**(月)まで

消費税および  
地方消費税(個人事業者) 令和7年 **3月31日**(月)まで

事業税・住民税 令和7年3月17日(月)まで

税務署の申告会場に来られる方は、**マイナンバーカードとパスワード2つ**(英数字6～16文字と数字4桁)をお忘れなく!

各会場当日配布  
LINEから事前発行



## 11月号読者プレゼント

11月号「事業所紹介」の読者プレゼントに沢山のご応募をいただきありがとうございました。応募総数65通のハガキの中から抽選しましたところ、次の皆様が当選されました。おめでとうございます。今回当たらなかった応募ハガキはW抽選に回ります。ご期待ください。

当選おめでとう お食事券 10名様(敬称略)
近藤 研吾(高松)
岡本 康子(高松)
北本 友香(宇気)
高井 健志朗(外日色)
金子 由紀子(白尾)
東 誠一郎(高松)
朝日 喜代美(七尾)
谷 ちくさ(外日色)
中野 美紗(白尾)
沖野 初美(高松)

## かほく四季まつりあったか雑炊・鍋まつり

### 冬の味くらべ

■キャンペーン期間 令和7年1月18日(土)～2月16日(日)まで

■まつり期間中、登録飲食店でメニューの雑炊・鍋を食べると抽選券がもらえます。抽選券に、お名前・住所・電話番号をご記入のうえ、お店や商工会に備付けの応募箱に2月18日(火)までに投函ください。後日抽選で登録飲食店共通お食事券、かほく市共通商品券が当たります。

あったか雑炊・鍋を食べて、お食事券をGETしよう!

20周年記念特別賞 **かほく市共通商品券 50,000円 ……3本**

満ぶく賞 **登録飲食店共通お食事券 10,000円 ……10本**

味わい賞 **登録飲食店共通お食事券 3,000円 ……90本**

抽選日(予定) 令和7年3月上旬 当選者には直接賞品をお送りいたします。

さらに 雑炊・鍋を食べて、ラリーカードに、にゃんたろうスタンプを5つ(1つ重複可)集めて、かほく市共通商品券1,000円分をもらおう!!(ラリーカードは各店舗でもらえます)

ラリーカードは、令和7年2月20日(木)までに、かほく市企画振興課、高松サービスセンター、七塚サービスセンターで交換いたします。カードの詳細は、「店めぐりラリーポイントカード」をご覧ください。  
※お1人様1回のみ交換します。

かほく市まつり実行委員会(かほく市商工会 かほく市高松ク42-1 ☎076-204-6822/かほく市企画振興課 かほく市宇野気281 ☎076-283-1112)

## 「かほく! 秋の恵みと高松歴史探索」を開催しました!

かほくちょこっと旅 10/回 20

当日は晴天に恵まれ、高松の額神社と大崎のかほくりの農場へ行き、かほくりの収穫を体験し沢山の芋を掘ることが出来たので参加者の嬉しい笑顔がみられました。



## てんこもりフェスタ2024

去る11月9日(土)10日(日)、いしかわ四高記念公園で開催された「いしかわ食のてんこもりフェスタ2024」に出展しました。天候に恵まれ、たくさんのお客様が訪れていました。かほく市のご当地グルメ「かほくコロッケ」、「豚輝ソーセージ」を販売。どちらも出来立てを提供し、大人気でした。



## 「PFUブルーキャッツ石川かほく」 応援観戦会/繊維部会

11月23日(土)、繊維部会はレクリエーション事業として今年4月に開設された、かほく市総合体育館「とり野菜みそBLUECATSARENA」で開催されましたPFUブルーキャッツ石川かほく VS 埼玉上尾メディックスの応援観戦会を行いました。当日は繊維部会の皆様23名にご参加いただきました。

試合は熱戦の末、リーグ首位(当時)の上尾メディックスに残念ながら1-3で敗れましたが、試合後の選手挨拶では観客から健闘を称えられ惜しみない拍手が送られました。



## かほく創業塾2024を開催!



かほく創業塾を11月1日(金)から5回シリーズで開催し18名の方が受講されました。

講師には、(株)迅技術経営の高稲俊輔税理士・中小企業診断士、小松巧特定社会保険労務士、日本政策金融公庫金沢支店国民生活事業の留目憲男融資第2課長、かほく市 地域政策部企画振興課の村西研郎氏をお招きして、事業を軌道に乗せるための経営の知識(経営一般・財務・人材育成・販路開拓等)と具体的な計画作成のプロセスについて説明いただきました。

受講者からは、「創業するにあたり、色々な考え方や知識が身に付いたと思います。勉強させていただきましてありがとうございました。今後も相談させていただくことがあると思いますが、よろしくお願いたします。」「毎回、とても楽しみに受講させていただきました。この1ヶ月創業についてしっかりと考える事ができました。本当にありがとうございました。」との感想をいただきました。

また同じ志を持つ者同士、コミュニケーションを取りながらつながりを作り、自身の夢や目標へと歩みを進めている様子も伺えました。

## FaW TOKYOファッションワールド東京で、 かほく市の繊維産業をPR

10月15日(火)~17日(木)、東京ビックサイトにてアパレル生産にかかわる全分野を対象とした資機材やサービス・技術の総合見本市「FaW TOKYOファッションワールド東京」が開催されました。

かほく市商工会では販路開拓支援事業として「繊維のまち 資材の宝庫かほく」を全国にPRする目的で、平成18年から各種の展示会に出展事業を行っております。かほく市商工会は9m×2.7mのスペースに原糸卸やゴム入り細巾織物等の製造販売を営む9社が自社PRやアパレル関係などとの商談に臨み、販路拡大を目指しました。



今回の出展企業は、  
**(株)気谷、山越(株)、(株)タロダ、(株)中村編織工業、(株)二口製紐、(株)シオモト製紐、(有)ワイ・アール・ティ、吉田司(株)、(株)紐屋**

## 河北・森本広域商工会

### 城北中央公園調整池工事現場を視察

去る11月22日(金)かほく市商工会3名、森本商工会3名、内灘町商工会4名で東京都板橋区の城北中央公園調整池(二期)工事現場を視察した。

石神井川の氾濫(水害)から都民の暮らしを守るための工事で、地下に水を溜める鉄筋コンクリート造の箱をつくる土木工事です。ニューマチックケーソン工法を採用、地上でケーソンと呼ばれる鉄筋コンクリートをつくり、ケーソン下部に気密性の作業室を設け、空圧により地下水の侵入を防ぎながら掘削作業を行い、地下に沈める工法です。地下30mの作業現場を視察、日本最大級の工事とのことでした。



## 広域商業振興研修会

### 北陸製菓(株)視察

去る10月29日(火)、河北・森本広域商工会協議会は、商業振興研修会を実施。金沢市の北陸製菓(株)への視察研修を実施しました。

研修では、執行役員営業本部 副本部長 佐竹美紗子氏が事業概要や主力商品である「ビーバー」の販売戦略について説明しました。

2018年に高崎憲親氏が26歳で代表取締役社長に就任。当時の364アイテムの中からどれか1つ当社を代表するお菓子に育てる方針を立てました。中でもキャラクター性があり、一気通貫で製造が可能なお菓子ということで「ビーバー」が選ばれました。「ビーバー」は、キャラクターを前面に出して、期間限定商品の販売や他社とのコラボを積極的に行っています。2019年に、八村塁選手がPRしたこともあり、爆発的なヒットとなりました。以降、現在までビーバーの販売量は年々増加しており、営業をしながらもコラボの話が来るようになったとのこと。

新しい取り組みに挑戦し続けることで、今や北陸を代表する米菓となった「ビーバー」の魅力について学ぶことができました。



## 商業部会 視察研修 ● 島根県

商業部会は13名の参加者で島根県への視察研修を実施しました。

1日目は足立美術館を視察しました。足立美術館は近代日本画を中心とした美術館で、横山大観のコレクションとともに、アメリカの日本庭園専門誌で21年連続日本一に選ばれた庭園が有名です。



2日目は出雲大社、神門通り、由志園を視察しました。出雲大社は、日本の縁結びの神様として全国的に有名な大國主大神が祀られています。専門ガイドによる参拝の心得や御本殿をはじめとした境内の案内のもと参拝しました。神門通りは、出雲大社の門前町です。出雲商工会で神門通りおもてなし協理者より神門通りおもてなし協設立に至るまでの話や、現在取り組んでいる事業について説明を聞き懇談をしました。由志園は紅葉が見頃で面積約1万坪の池泉回遊式庭園は素晴らしいです。両日とも見所多く、有意義な研修になりました。



## かほく四季まつり 大盛況! かほく力ニ合戦



去る11月17日(日)、かほく市七塚生涯学習センター(中央図書館)駐車場で、「かほく力ニ合戦」が開催され、約8千人の来場者で賑わいました。

当日は朝から曇り空で、時折小雨がぱらつく程度で、寒くもなく穏やかな天候になりました。まつり開始の午前9時には「加能力ニ」や「香箱力ニ」を自当てる約200人の来場者が列に並びました。

まつりは、チャリティもちつきで始まり、会場では、加能力ニの販売のほか、かに汁、かに雑炊、かほく市特産品(長いも、紋平柿、かほくくり等)の販売、焼き牡蠣、焼き鳥、焼きそばなども販売されました。また、友好都市の長野県駒ヶ根市からの特別参加で駒ヶ根市特産品のりんごやソースカッパの販売も行われました。

会場で行われた「重さ当てクイズ」は、たくさんのお誘いを頂き、重さの数値が近かった方々に「加能力ニ」長いも、「紋平柿」、「かほくくり」、「りんご」が贈呈されました。

また、かほく市制施行20周年事業として、「パレーボールPFUブルーキャッツ石川かほく」のホームゲーム招待券等豪華賞品が当たる抽選会も行われました。会場内に設けられた飲食スペースは、終日賑わいました。

## 「さとやまマルシェ秋」に出店

### かほく市商工会繊維部会販売促進会

「I Love かほく市場」が道の駅高松「さとやまマルシェ秋」に出店。

11月9日(土)、かほく市商工会繊維部会販売促進会(通称:I Love かほく市場)は道の駅高松山館イベント広場でかほく市の繊維製品の展示販売を行いました。

同イベントはかほく市特産の「高松紋平柿」、「かほくくり」、「長いも」、地元農家さんの新鮮野菜などが販売され、秋晴れのすがすがしい天候のもと多くの来場者が訪れ、盛況裡に開催されました。



## 建設部会 視察研修 ● 福島県

11月12日(火)~13日(水)にかけ、参加者12名で、福島県への視察研修を実施しました。今回は、東日本大震災の発生から現在に至るまでの道のりや被災地の復興状況について学ぶための研修内容となりました。

1日目に視察したアクアマリンふくしま(環境水族館)は、津波被害を受け展示生物の9割を失いましたが、館長の強いリーダーシップにより発災から4ヶ月後には再オープンしたとのこと。

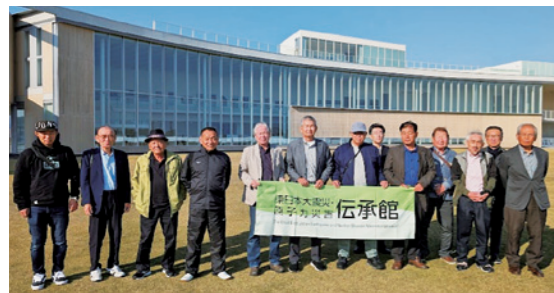
2日目に訪問した双葉町にある東日本原子力災害伝承館は、地震、津波、東京電力福島第一原発事故という複合災害の実態や、復興に向けた歩みについて展示してある施設でした。

その後、浅野燃系(株)双葉工場を見学しました。本社は、岐阜県ですが、現社長が福島県の大学を卒業したことから、双葉町の復興に何か役に立ちたいと想い、当地に工場及び販売施設を建設されました。2004年、魔法の糸「スーパースーパー」を開発。この糸で作られたタオルブランド「エアー」があるのは、多くのメディアに取り上げられ倒産寸前だった会社を救った大ヒット商品となったそうです。

最後に訪問した浪江町立浪江小学校は、津波被害を受けましたが、生徒、職員全員が無事避難することができた奇跡の学校としても知られ、震災遺構としてそのまま保存されています。津波は校舎の2階まで達し、いたるところで大津波の脅威が感じられました。現在は、福島第一原発事故の放射線汚染の影響で、災害危険区域に指定され人は住めなくなっています。

福島県は、津波と原発事故という複合災害にあった県で、特に原発事故によって立ち入り禁止となっている地区は、町のあちこちに汚染土が積まれており、発災後13年を経過しましたが、まだ復興半ばの地区もありました。

今後、能登半島地震においても復旧、復興まで長い年月がかかると思っていますので、息の長い支援が必要であると感じました。



東日本原子力災害伝承館にて